

6:1 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。

6:2 互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。

6:3 だれかが、何者でもないのに、自分を何者かであるように思うなら、自分自身を欺いているのです。

6:4 それぞれ自分の行いを吟味しなさい。そうすれば、自分にだけは誇ることができても、ほかの人には誇ることができなくなるでしょう。

6:5 人はそれぞれ、自分自身の重荷を負うことになるのです。

6:6 みことばを教えてもらう人は、教えてくれる人と、すべての良いものを分かち合いなさい。

6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

6:8 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。

6:9 失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取るようになります。

6:10 ですから、私たちは機会があるうちに、すべての人に、特に信仰の家族に善を行いましょう。

るところです。ただし、自分は正しいというような言い方では、相手に伝わりません。単に感情的に受け入れられないというだけでなく、それは自分の視点でしか見ていないということが伝わるからでしょう。神様の視点で教えるのであれば、教える本人も聖なる神様の前で謙っているはずですから「柔和な心」が大切なのです。そして「自分自信も誘惑に陥らないように」という警告が出てくるのです。

また「人にはそれぞれ自身の重荷がある」ので、人と比べたり、自分で基準を決めたりして、「自分はよくできている、よくやっている、正しく歩んでいる」というような自己満足をしないようにしましょう。大切なのは、主が与えてくださった使命を果たし、主の目的を実現しているかということです。また主の共同体の中で、主の愛する人々のために期待に応えているかということなのです。勝手に自分は合格だと思い込まないようにしましょう。

「みことば…を教えてくれる人」は、善き関係によってそれが可能になります。緊張関係や利害関係、対立関係では、主の愛のみことばも歪んで伝わってしまいます。むしろ「良いものを分かち合う」ような関係によって、互いに自由に話せるものです。何より聖霊によって語られることは、聖霊による愛の関係によって伝わります。

人間関係において良い種を蒔けば、必ず良いものをなり取りますから、相手の態度が悪いままでも「失望せずに」、蒔き続けましょう。「善を行い」続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

